特定非営利活動法人　TICO(ティコ)
Tokushima International COoperation

2013年度　年次報告書

**TICO(ティコ)はアジア・アフリカの
地域住民の自立を支援します**

**日本においては、人々が地球規模で考え
行動するきっかけや場を創ります**

特定非営利活動法人
TICO

TICO代表　吉田修

はじめに

TICO会員の皆様やご寄付をくださった方々をはじめ、ご支援、ご協力をいただいた皆様方に心より感謝申し上げます。

おかげさまで2013年度も地域住民に寄り添った活動を実施しつつ、新たな試みも開始しております。そして、2010年10月から３年間実施してきた安全な妊娠／出産の支援事業も無事に終了することができました。本事業で得た経験や教訓は、来年度から開始される継続案件に活かしてまいります。これからも、ザンビア及びカンボジアで地域の自立発展に繋がるべく、地道な草の根活動を展開していきます。

これまで多くの学生が合宿の参加やザンビアの活動地を訪れました。最近の若者は内向きなどと世間では言われていますが、非常に熱心で優秀な若者たちであり、今まさに世界に羽ばたこうと準備を進めています。学生だった参加者もそろそろ社会人となり活躍が期待されます。

今後も、TICOは誰もが気軽に携わることができる開かれた国際協力を目指していきます。

今後も変わらないご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

栄養のある離乳食の作り方を実演する住民保健ボランティアと見学するお母さんたち

ザンビア事業報告

アフリカ南部の内陸部に位置するザンビア共和国。主な活動地はチボンボ郡*内にあり、首都ルサカから北東へ約100キロメートルに位置しています。英語で水、農業、医療・健康、教育の頭文字をとって名付けられたWAHE(ワヘ)プロジェクトを活動の軸に、持続可能な干ばつに強い村を目指した、総合的な農村開発、自立支援を行っています。

［ザンビア共和国地図］

＜干ばつに強い村づくり＞
1.農村部保健医療改善事業
～チボンボ郡*地域住民が支える安全な妊娠／出産の支援事業～
WAHE（Water, Agriculture, Health, Education）

【JICA草の根技術協力事業】
中央州チボンボ郡*モンボシ

⑴事業の背景・目的

＜安全な妊娠／出産ができる環境を＞

チボンボ郡*モンボシは、首都から約100キロメートル北に位置する農村地域です。保健医療の施設も物資も人材も慢性的に不足している現状にあって、住民が自らの健康を守るしくみをつくり、これが機能するための最低限の施設・物資・人材を確保するべく、2007年8月より3年間プライマリーヘルスケア事業を展開しました。

2010年10月からは、さらに課題の多い妊産婦保健に焦点を当て、モンボシ地域の妊娠出産をめぐる状況が改善し、安全なお産が可能となる環境を整えるべく、妊産婦保健事業を実施しました。

本事業は2013年9月をもって独立行政法人国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業による委託が終了しました。

⑵活動内容

＜住民自らが妊産婦保健に取り組む＞

地域単位で妊産婦保健に関わる各種保健活動が実施できるよう体制を整え、住民自らが妊産婦保健の問題点を把握し、解決できる力を養いました。

1）安全なお産支援グループ（SMAG）の体制づくり
　▷対象： ヘルスポストと周辺9地区

2）栄養・妊娠・出産についての健康教育
　▷対象：ヘルスポストと周辺9地区の地域住民、特に妊娠適齢期の女性

3）妊産婦をめぐる保健問題の改善
　▷対象：ヘルスポストと周辺9地区の地域住民

⑶本年度の成果

＜プロジェクト目標を大幅に達成!!＞

事業のプロジェクト目標として掲げていた施設分娩数が事業開始前と比べて2倍以上に増加、4回以上の妊婦健診受診率も15%に増加し、共に目標値を大幅に上回る成果が見られました。また、妊娠中に起こり得る危険兆候を2つ以上知っていると回答した産婦は約3倍に増加しました。

そして、本事業終了後も持続可能に活動していけるよう、伝統的産婆や住民ボランティアで成る安全なお産支援グループ（Safe Motherhood Action Group、以下SMAG：スマッグ）メンバー全員に対し知識のリフレッシュ連続講座や活動強化を目的とした研修、そして酋長や村長を巻き込んで、地域全体で安全な妊娠・出産をバックアップするための研修を実施しました。

＜看護師の増員＞

郡保健局との連携の下、ヘルスポスト及びお産を待つ家の運営支援、そしてヘルスポスト看護師1名の増員に貢献しました。

＜ザンビア人看護師／助産師の日本研修実施＞

本事業の連携機関であるヘルスポストのザンビア人看護師／助産師（1名）に対し、「母子への継続支援及び安全なお産のための管理体制を日本の母子保健の実例から学び、応用可能な技術・知識が実践できる」ことを目的に2013年9月23日から10月12日の20日間、徳島県及び香川県にて研修を実施しました。

▲徳島県のマスコットキャラクターすだちくんと阿波おどりポーズをきめるアイビー看護師/助産師。

*チボンボ郡：地方分権化政策の一環でチボンボ郡は分割され、チボンボ郡*とチサンバ郡となった。活動地は新チサンバ郡下にあるが、本報告書では（旧）チボンボ郡で統一表記している。

＜2013年度の主な成果＞

・ザンビア／チボンボ郡*地域住民が支える安全な妊娠・出産支援事業が終了！

2010年10月から3年計画で実施してきた妊産婦保健プロジェクトは、当初の目標を大幅に上回る成果を上げることができました。

（JICA（国際協力機構）草の根技術協力事業）

・ザンビア人看護師／助産師の日本研修を実施！

2013年9月23日から20日間に渡り、ザンビア人看護師/助産師を日本へ招へいし母子保健に関する研修を実施しました。

・鳴門教育大学との連携事業がスタート！

2度の専門家派遣やコミュニティスクールでのワークショップなどが行われました。

【ザンビア事業従事者】

吉田修（プロジェクトマネージャー）
田村幸根（保健医療専門家）
竹村俊男（コミュニティ活動専門家）
瀬戸口千佳（業務調整員）

▲SMAGのメンバーたち。今後の彼らの活動に期待が寄せられます。

⑷課題と今後の見通し

お産を待つ家が稼働し、遠方に住む妊産婦も出産予定日前に待機し、施設分娩が出来る状況にありますが、依然として男性優位社会の中で女性の発言力は弱く、妊婦健診を受診せず出産予定日を知らない、施設分娩の重要性を理解していても実際は分娩兆候があってから施設に向かうなど課題は根深くあります。引き続き、保健医療サービスの質の維持向上を図ることで、地域の安心安全な妊娠／出産の確保が必要とされています。今後3年間、半年に1回の頻度でSMAGの活動、及び施設分娩数のモニタリングを実施する予定です。

また、本事業で得た経験・教訓は後継案件である母子保健事業に生かしていきます。

▲出張健診に訪れたお母さんと子どもたち。

＜干ばつに強い村づくり＞

2. 中等教育学費事業

WAHE（Water, Agriculture, Health, Education）

中央州チボンボ郡*モンボシ

⑴事業の背景・目的

＜教育機会向上のための学費支援＞

WAHE（ワヘ）(水：Water、農業：Agriculture、健康：Health、教育：Education)の４つの領域にまたがりながら、農村の暮らしを総合的に良くしていこうという考えのもと、日本の支援者とザンビアの人々が身近につながりあえる仕組みとして「学費支援」の寄付を募り、教育機会の向上を図りました。

⑵活動内容と成果

＜支援制度の確立と候補者の選定＞

中学生の学費支援について学校関係者と協議を重ね、支援基準および方法などを支援制度として明文化しました。奨学金支援は初めての試みでしたが、モンボシ小中学校の強力なサポートにより徳島県吉野川市立森山小学校からのご寄付を学生10名の支援に充てることができました。森山小学校の児童と奨学生たちは手紙やビデオレター通じて交流することができました。

⑶課題と今後の見通し

今後、TICOユースや一般の方からのご協力もいただき、支援可能な人数を増やす予定です。また、支援者拡大により、選考基準など対応しきれない場合もあることから、モンボシ小中学校の関係者と共に協議しながら、制度の見直しを検討していきます。

モンボシ小中学校

＜干ばつに強い村づくり＞

3. 住民主導村落開発小規模支援事業

WAHE（Water, Agriculture, Health, Education）

中央州チボンボ郡*モンボシ

⑴事業の背景・目的

＜地域住民主体の事業を支援＞

日本の支援者とザンビアの人々が身近につながりあえる仕組みとして、地域住民が主体となって実施していく事業を「ザンビア募金」の寄付を使って、小規模ながら地域の発展に貢献できるような支援を実施しました。これはWAHE（ワヘ）の４つの領域にまたがりながら、農村の暮らしを総合的に良くしていこうという考えと、TICOが地域と地域を結ぶNGOとしての役割の双方を果たすべく生まれた企画です。

⑵活動内容と成果

一次募集においては、8つの申請を受付け、以下の3件を採択しました。

◇カロンガ・コミュニティスクール教材支援

◇家畜薬浴層ディップタンクの建設

◇改良換気型トイレの設置

また、二次募集では、11件の申請があり、現在、審査中です。

一次募集の採択案件のうち、コミュニティスクールへの教材支援がすでに完了しています。残りの2件においても雨季などで一時中断を余儀なくされることもありましたが、作業は順調に行われています。

また、地域から要望があった橋の建設については、NPO法人「道普請人」との連携の下、来年度の完成に向けて計画が進んでいます。

⑶課題と今後の見通し

進行中の案件については進捗を確認しながら、新規案件については選考の後、採択の是非を決定していきます。そして、今後は母子保健事業に組み合わせる形で支援していく予定です。

▲教科書を手にする子どもたち。

建設中のディップタンク

▲完成したトイレ２棟

＜ンゴンベ貧困地区民生改善事業＞

ルサカ市ンゴンベ地区

⑴事業の背景・目的

1997年7月よりルサカ市に多数存在するコンパウンド(低所得者層居住区、貧困地区)の1つであるンゴンベ地区において、子どもたちの栄養改善を目的として事業を実施してきました。しかしこの目的を達成する為には貧困を含む社会的要因が大きく絡んでいることから、2000年より子どもの栄養状態改善及び地域社会の特に女性の能力開発を目的とした民生改善プロジェクトへと発展し、現在に至ります。

▲裁縫教室の様子。

⑵活動内容と成果

＜コミュニティスクール運営支援＞

ンゴンベ地区の女性住民へ裁縫や栄養教室を通した技術移転を実施していますが、受講者が増加していることを受け、昨年度から新しい教室を増築中です。

教室の建設は、他の団体からの資金提供を受けるなどザンビア人により自主的にされています。授業料や裁縫作品の販売等で運営に必要な収益を上げていますが、教員含むスタッフの給与の支払いや増築のための資材購入が困難な場合があるため、TICOからは運営資金を支援しています。その他、コミュニティースクールの運営委員会のメンバーとして、活動内容や運営方針に係る協議に参加し、間接的な支援も継続して行なっています。

＜配車支援＞

彼らが独自に実施している洋裁教室の作品販売など、所得創出活動、文化祭等の学校行事の実施や卒業試験会場までの送迎、必要な物資の運搬作業を行うための配車等の支援も引き続き実施しました。

⑶課題と今後の見通し

次年度も資金面や配車の支援、運営委員会への参加等の事業運営支援を実施します。

カンボジア事業報告

東南アジアに位置するカンボジア王国。　ザンビアで成果を上げてきた救急事業の経験を生かし、 首都プノンペン市西部地区を中心に2008年より救急医療支援活動を行っています。

2014年2月からは、高松市とセカンドハンドが協働で実施するJICA草の根技術協力事業に連携団体として専門家を派遣しています。

[東南アジア地域地図]

首都プノンペン市

スヴァイリエン州

【カンボジア事業従事者】
渡部豪（保健医療専門家）

＜2013年度の主な成果＞
- **医療者の人事交流**：専門家のカンボジア派遣を2回実施
- **継続した啓発活動**：他団体との協働による救急対応に関する啓発活動が展開

1. プノンペン市医療従事者救急対応力向上事業

【公益社団法人セカンドハンド協働事業】
スヴァイリエン州

⑴事業の背景・目的

＜医療従事者の技術向上のために＞

2007年度から香川県にある公益社団法人セカンドハンドと連携し、カンボジア王国・プノンペン市における救急活動を支援してきました。

低所得者でも利用できる救急搬送体制構築の支援、救急対応ガイドラインの策定、公的医療機関における医療従事者のトレーニングを実施しています。

⑵活動内容と成果

救急隊の訓練に加え、公的医療機関における医療従事者の救急対応能力向上のための研修を実施しています。6月には日本から専門家を派遣し、セカンドハンドと共にスヴァイリエン州における救急医療をめぐる状況について、視察してきました。また、翌年3月には高松市消防局の救急救命士及びセカンドハンドと共に、スヴァイリエン州にある3つの病院にて救急医療研修を実施しました。

⑶課題と2014年度の見通し

＜技術能力維持・向上のための研修＞

昨年度と同様に現地へ日本人専門家を短期間派遣して研修を実施できるよう、引き続きセカンドハンドと連携していく予定です。

2. 住民啓発事業

【公益社団法人セカンドハンド協働事業】
プノンペン市西部地区／スヴァイリエン州

⑴事業の背景・目的

カンボジアでは「119」に連絡すると全国どこでも無料で救急車がかけつけるといった制度が整備されていません。また、医療機関においても救急時の対応に関する適切な知識が乏しい状況で、一般住民においても「応急処置」に関する知識がなく、誤った処置により症状を悪化させるなどの状況が生じていました。

事故が発生した時に、適切かつ最低限の応急処置を受け、適正に転院・搬送が行われることを目標に、2008年1月から3年間、低所得者でも利用できる救急搬送体制の構築、救急対応ガイドラインの策定、公的医療機関における医療従事者のトレーニング及び地域住民の救急医療についての啓発活動を実施してきました。2011年からは主に啓発活動を支援しています。

⑵活動内容と成果、今後の見通し

公的医療機関が主催する地域住民対象の応急手当や救急対応に関する啓発活動を支援しています。3月にはセカンドハンドの活動地であるスヴァイリエン州にて、プノンペン市の医療従事者2名によるファーストエイド（応急手当）講習が行われました。この講習を実施した2名は、以前にセカンドハンドの事業により日本に招へいされ、研修を受けています。今後も医療従事者救急対応力向上事業と合わせて啓発活動を支援します。

▲地元住民等を対象とした救急対応の啓発ワークショップの様子。

国内活動報告

ザンビアやカンボジアでの国際協力活動を通して得た経験を、徳島をはじめとする日本の市民と分かち合い、自らの生活を改めて振り返る機会を提供します。そして、共に持続可能な社会を構築することを目指して、国内でも様々な活動を行っています。

1. 地球人カレッジ

「地球規模で考えながら地域から活動していく」きっかけを一地方である徳島で提供するべく、毎月1回「地球人カレッジ」と称したセミナーを開催しています。1997年から続くTICOの原点ともいえる国内活動で、2009年9月からインターネットで中継を開始しています。

【2013年度地球人カレッジ実績】

日時	テーマ	講　師
5/10	アフリカで20年・子どもたちと共に	松下照美さん（モヨ・チルドレインセンター主宰）
6/11	コーヒーから考えるナマケモノ流国際協力論	宇野真介さん（ナマケモノ倶楽部理事・法政大学兼任講師）
7/27	住民とともに「どのう」で道を直す～自分達の使う道は自分達で直せるという意識を広げたい！～	木村亮さん（NPO法人道普請人理事長・京都大学教授）
8/23	徳島新聞記者が捉えた「アフリカの今」～ザンビアの国際協力活動の取材現場から～	藤長英之さん（徳島新聞記者） 中川朋子さん（JICA四国支部徳島デスク　国際協力推進員）
9/21	いま、ふくしまで始まっている新しい未来	鎌田千瑛美さん（一般社団法人ふくしま連携復興センター理事） 戸田光司さん（一般社団法人みんな未来センター代表理事）
10/5	ザンビア妊産婦保健プロジェクト活動終了報告～地域のお母さんを地域のみんなで守る～ナースとボランティアグループの挑戦	田村幸根（TICOザンビア事務所保健医療専門家） アイビー・チヨタ・ムクンバさん（ザンビア・モンボシ診療所看護師／助産師）
10/26	「TICO設立20周年記念」絵とマンガとロールプレイを通して地域開発、支援・援助、国際協力を考える！	池住義憲さん（立教大学大学院教授・日本イラク医療支援ネットワーク理事）
11/30	イラク戦争から10年。友と共に歩み考えたこと～東日本大震災とアラブ騒乱をこえて～	相沢恭行さん（イラク支援・文化交流の会（PEACE ON（ピースオン）主宰）
12/28	ザンビアに行くことになったお父さんが考えたこと	杉本尊史（さくら診療所医師／TICO保健医療専門家）
1/11	何を、どう教えるのか～アフリカの学校が直面する、次なる課題～	赤井秀行さん（鳴門教育大学大学院）
3/15	アフリカの言語とコミュニケーションスタイルについて考える	稲葉久之さん（特定非営利活動法人AMDA社会開発機構）
3/23	吉田代表が今伝えたいこと	吉田修（TICO代表理事／さくら診療所理事長／市民がつくるエネルギー代表） 武井由起子さん（弁護士）

2. 講師派遣事業（出前講座）

教育機関、市民団体等へTICOスタッフを講師として派遣し、講義やワークショップを通して地球市民教育を行っています。今年度は11の学校や機関等から講師派遣及び連続講座の依頼がありました。

【2013年度講師派遣実績】

日時	依頼先	実施内容
4/1	社会福祉法人徳島県自殺予防協会	「地域づくりの処方箋社会ぐるみの幸せを目指して」
5/8	徳島大学	国際協力論（ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」）
5/15	宮崎大学	地域医療学① 地域医療学②
5/21	四国大学	四国大学教養講座
5/24	徳島大学	国際看護活動論・国際医療活動論
5/31	徳島大学	国際看護活動論・国際医療活動論
6/7	徳島大学	国際看護活動論・国際医療活動論
6/24	香川大学	国際協力論（TICOの活動紹介）
8/9	高知工科大学	国際協力論（TICOの活動紹介）
9/8	とくしま生協	「ザンビアの現状と日本国憲法から読み解く日本の役割」
9/12	日本口腔・咽頭科学会学術講演会	「ザンビア支援から考える国際医療保健と地域医療」
10/11	四国大学	国際看護
10/8	四国大学	国際看護
11/10	長島愛正園歴史館	アフリカにおける医療状況　ザンビアを中心に
11/25	柿原小学校	総合的な学習の時間（国際理解）
12/6	柿原小学校	総合的な学習の時間（世界の子ども達の現状）
1/18	徳島大学（TICOユース）	アフリカの現状について
2/21	神宅小学校	チャレンジアフリカ
2/28	徳島大学	医学概論

▲地球人カレッジの様子。

▲講師派遣の様子。

＜2013年度の主な成果＞
・**地域とのつながりを強化**：昨年度に引き続き、地元のイベントに積極的に参加すると共に、地球人カレッジにおいても地元で活躍されている講師もお招きし、地域とのつながりを深めました。
・**20周年記念イベントの実施**：TICO設立20周年を記念して、イベントの開催や特大号を刊行しました。

3. TICO合宿(青少年育成事業)

吉野川市山川町にある環境に配慮した宿泊施設で、集中的に国際協力や持続可能な循環型社会について学ぶ機会を提供しています。

▲合宿の様子。早朝は有機野菜畑での農作業体験。

【2013年度合宿受け入れ実績】

日付	参加団体	日付	参加団体
5/2～4	Jaih-s合宿	7/6～7	高知大学合宿
10/26～27	TICOユース合宿	1/11～13	IFMSA合宿

4. 情報発信、イベント参加等

地域とのつながり・関わりが広がり深まるよう、地域のイベントに積極的に参加しています。毎年恒例の「わらびの会」主催によるゆず狩りに加え、ゆず畑の手入れにも参加しています。

【2013年度イベント参加実績】

日付	イベント名	場　所	内　容
6/9	ゆずの手入れ	木屋平	草刈り
6/19	にこにこ市	石井ロッタハウス	バザー
11/10	ゆず狩り	木屋平	
2/1～2	ワン・ワールド・フェスティバル	大阪	パネル展／バザー
2/23	フリーデンスフェスト	鳴門市ドイツ館	パネル展／バザー

▲バザー出展の様子。

▲ゆず狩りの様子。

昨年度のJICA地方マスコミ派遣の取材により徳島新聞に7回に渡って記事が連載されました。

また、この他に設立20周年に関する取材記事や地球人カレッジやイベントのお知らせが、徳島新聞や生活情報誌「SALALA」に掲載されました。

さらに、公式Facebookを立ち上げ、地球人カレッジや合宿の様子を掲載したり、イベントの広報を行うなど、広く情報発信に努めました。

【2013年度メディア掲載実績】

日付	媒　体	取材対象
4/4	徳島新聞（朝刊）	TICOザンビア事務所「成長の中格差広がる」
4/5	徳島新聞（朝刊）	TICOザンビア事務所「看護師不足変わらず」
4/6	徳島新聞（朝刊）	TICOザンビア事務所「サッカー場を造りたい」
4/9	徳島新聞（朝刊）	TICOザンビア事務所「現地の人だけで運営」
4/10	徳島新聞（朝刊）	TICOザンビア事務所「学びたい」思い再び
4/11	徳島新聞（朝刊）	TICOザンビア事務所「住民に保健教育必要」
4/12	徳島新聞（朝刊）	TICOザンビア事務所「できることから実行」
5/14	朝日新聞（朝刊）	吉田修
9/27	徳島新聞（朝刊）	ザンビア人看護師／助産師の日本研修
11/24	徳島新聞（朝刊）	事務局「TICO設立20周年について」
1/18	徳島新聞（朝刊）	吉田修、TICOユース
2/6	SALALA	事務局
3/31	口腔・咽頭科Vol.27 No.1 2004	吉田修

＜人材育成＞

JICA四国主催による国際協力担当者のためのPCMを活用したプロジェクト運営について受講し、ザンビア事務所の後方支援強化に努めました。

【2013年度受講講座】

日付	セミナー名
6/20～21	平成25年度国際協力担当者のためのPCMを活用したプロジェクト運営基礎セミナー
6/27～28	平成25年度国際協力担当者のためのPCMを活用したプロジェクト運営セミナー　モニタリング・評価
12/1	NPO法人のための税務講座

会計報告

収支の状況　＊財務諸表はホームページにて公開しています。

～2013年4月1日から2014年3月31日まで～

（単位：円）

収支の部

会費・入会金収入	1,911,000
事業収入	10,511,152
寄付金収入	3,128,700
雑収入	174,523
収入合計(A)	15,725,375
前期繰越金	11,965,600
総計(B)	27,690,975

支出の部

海外事業	
ザンビア事業	12,618,182
カンボジア事業	131,926
国内事業	
会報・刊行物の発行	167,469
その他広報活動費	2,630
開発教育に関する事業	195,011
ザンビア人看護師日本研修事業	278,002
徳島大学「国際協力論」	273,355
管理費	2,386,537
その他	224,609
支出合計(C)	16,277,721

当期収支差額(A)-(C)	▲552,346
次期繰越収支差額(B)-(C)	11,413,254

貸借対照表

～2014年3月31日現在～（単位：円）

資産の部

流動資金	
現金預金	7,345,218
流動資産合計	7,345,218
固定資産	
車両運搬具	4,137,493
固定資産合計	0
資産合計	11,482,711

負債の部

流動負債	
前受金	36,000
預り金	33,457
流動負債合計	65,457
固定負債	
固定負債合計	0
負債合計	69,457

正味財産の部

当期賞味財産増減額	▲552,346
正味財産合計	11,413,254
負債及び賞味財産合計	11,482,711

役職員名簿

【代表理事】
吉田修

【理事】
福士庸二
渡部豪
饗場恭子
近森憲助
田淵幸一郎

【監事】
萩森健治

【事務局】
福士庸二（事務局長）
近森由記子（事務局員）

組織図

団体概要

団 体 名	特定非営利活動法人TICO（ティコ）
設　　立	1993年11月23日
団体資格	特定非営利活動法人 （2004年9月６日認証）
所 在 地	〒779–3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4
連 絡 先	Tel/Fax : 0883-42-2271 Mail : info@tico.or.jp Web : www.tico.or.jp Facebook：www.facebook.com/ticohq
会 員 数	正 会 員　10名 賛助会員個人　139名 賛助会員学生　26名 賛助会員団体　18名　計193名

特定非営利活動法人　TICO(ティコ)事務局

2014年7月発行